

𠂔

𠂔は𠂔の略字。戈は“ほこ”の象形字。ほこには、“矛”“干”の象形字もあり、“干戈”で戦争の意味にも用います。𠂔は、ほこを交えた形ですから、“戦う”“きずつけあう”のが本義です。部首としては、“きずつけそこなえなくなる”ことから、“わずか”の意味に使うことが多い。音はセン。

浅は、水がわずかということで“あさい”ことを表わしています。深浅、浅薄、浅学。今では、水に限らず“学問が浅い”というようにも使います。

銭は、わずかなお金ということで、今ではわずかなか金の単位(1円の百分の一)に使われています。金銭。

賤は、お金がわずかしかないということで“貧しい”“身分のいやしい”ことを表わした字です。貝は、貝かいの象形ですが、部首としては財宝や金銭の意味を表わします。貧賤、下賤。

残は、わずかな骨(歹は骨の一部を表わした形)ということで“食べのこり”の意味を表わしたものです。今では「残金」「残月」「残念」(心のこり)などと広く使います。音はザン。

餞は、わずかな食事という意味で“送別の宴”を、送る側が謙遜して“餞”と言いました。餞別、はなむけ。

箋は、わずかな竹ふだという意味で、今の「メモ」に当たるものを言います。紙のない昔は、木や竹のふだに字を書きました。便箋、通信箋。

盞は、小さいさら皿の意味で“さかずき”のことです。音はサン。

棧は“わずかな木の切れ”が本義で、今では戸や障子の横木のことを棧と言います。「棧橋」というのは“木切れを組み合わせで作った粗末な橋”という意味のことばです。

踐は“小さざみに足を運ぶ”ことで“踏む”“行なう”意味に使われま
す。実践。